

高校生の就職内定率は53.1%(10月末)。

2年連続のアップ、3年ぶりに5割超!

(平成16年10月末現在:文部科学省調査より)

平成16年12月 旺文社 教育情報センター

さる12月17日に発表された、文部科学省の就職内定状況に関する調査によると、来春卒業予定で就職を希望している高校生の就職内定率は、16年10月末現在で53.1%と、前年同期比で5.0ポイントアップしたことが判明した。昭和51(1976)年度の調査開始以来、過去最低を記録した14年同期(47.1%)から2年連続でアップし、3年ぶりに5割を超えた。就職事情にやや好転の兆しが見えた模様で、最終的な就職率(17年3月末)は90%ラインをわずかに超えるものと見られる。

同省初等中等教育局児童生徒課が行った本調査は、国立については国立大学、公立については各都道府県教育委員会、私立については各都道府県知事部局を通じ、全高校を対象に行った“悉皆調査”である。

今回判明した就職内定率(就職内定者の就職希望者に対する割合。以下、内定率)は53.1%で、15年同期の48.1%を5.0ポイント上回るとともに、3年ぶりに5割を超えた。卒業予定者約121.1万人のうち、就職希望者は約22.6万人。このうち就職内定者は約12万人、就職内定に至っていない者は約10.6万人(男子約5.4万人、女子約5.2万人)。

内定率を男女別に見ると、男子は57.0%、女子は48.1%で、15年同期に比べて男子は5.5ポイント、女子は4.0ポイント上回った。女子の内定率はいまだ5割を切っており、こと女子に関する限り、相変わらず厳しい就職状況といえる。

学科別に見ると「工業」(70.1%)、「商業」(55.3%)、「水産」(50.8%)、「農業」(49.9%)、「総合学科」(49.8%)、「家庭」(47.4%)、「看護」(43.6%)、「普通」(42.7%)の順となっている。各学科とも15年同期を上回った。

都道府県別に見ると、奈良県・沖縄県以外の45都道府県で内定率がアップした。奈良県(52.5%)は15年と同率、沖縄県(16.1%)は0.7ポイントダウンした。

内定率が高いのは、愛知県(78.3%)・岐阜県(78.2%)・富山県(75.0%)・三重県(73.4%)・滋賀県(70.0%)...の順となっている。一方、内定率が低いのは、沖縄県・北海道(27.2%)・宮城県(35.4%)・青森県(35.5%)・高知県(39.4%)...の順となっている。また、とくに内定率がアップしたベスト3は、佐賀県(54.3%:11.2ポイント上昇)、滋賀県(11.1ポイント上昇)、鳥取県(50.1%:8.7ポイント上昇)であった。

なお、調査結果の詳細については、文部科学省のホームページ(<http://www.mext.go.jp/>)中の「報道発表一覧 平成16年 12月 2004/12/24」をご覧ください。